

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 畠 和 宏 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博乙第3028号 |
| 学位授与の日付 | 平成8年6月30日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当) |
| 学位論文題目 | 尿路感染症治療におけるGranulocyte Colony Stimulating Factor (G-CSF)の有用性に関する基礎的検討 |
| 論文審査委員 | 教授 小熊 恵二 教授 中山 睿一 教授 原田 実根 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

尿路感染症治療におけるG-CSFのサイトカイン療法としての意義を評価しうるモデル系として、経尿道的前立腺切除術（TUR-P）後尿路感染症を設定することが、合目的であるか否か基礎的に検討した。高浸透圧中における好中球機能の抑制とG-CSFの好中球機能プライミング効果の抑制が認められたことから尿路内腔を主体とする感染症に対しては、G-CSFの有用性は低いと考えられた。そこで尿路粘膜下を主たる感染の場とするTUR-P後の状態に着目した。明らかな好中球機能障害や骨髓機能障害をもたないTUR-P後の患者にG-CSF投与を行なった結果、全血化学発光能の著明な増強作用を認めた。また術後感染症の発症も認められなかった。また経尿道的手術ではその侵襲による内因性G-CSFの誘導は認められず、G-CSF投与の臨床的評価に影響を及ぼすこともないと考えられた。以上より感染症モデルとして合目的であると考え臨床試験を施行し、副論文においてその成績を報告した。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は尿中などの高浸透圧下でGranulocyte Colony Stimulating Factor(G-CSF)を投与しても好中球機能を亢進しないが、好中球機能障害や骨髓機能障害のない患者に経尿道的前立腺切除術を施行した際にG-CSFを投与すると、好中球機能が著明に増強され、術後感染症の発症が抑制されることを明らかにした価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。